水道事業ガイドラインに基づく「主要背景情報」の算出結果

指標名（CI）		単位	算式等	令和5年度	令和6年度	令和7年度	指標の解説
水道事業体のプロフィール	給水人口規模	人	現在給水人口	200,641	200,105	200,591	給水人口規模、職員数によって水道事業の経営規模は大きく異なる。
	全職員数	人	全職員数	46	42	42	
システムのプロフィール	水源種別	–	–	表流水(自流)、伏流水、浅井戸水、深井戸水、浄水受水	表流水(自流)、伏流水、浅井戸水、深井戸水、浄水受水	表流水(自流)、伏流水、浅井戸水、深井戸水、浄水受水	水源種別、浄水場などの施設は、水道システムの最も基礎的な構成要素であり、浄水処理の費用、施設の維持管理に要する費用などに大きな影響を与える。また、浄水受水率は、受水の有無によって、必要とされる水道システムの条件が変わってくる。
	浄水受水率	%	浄水受水量 / 年間配水量	5.1	5.1	3.2	
	給水人口1万人当たりの浄水場数	箇所/10,000人	浄水場数 /（現在給水人口/10,000）	0.05	0.05	0.05	
	給水人口1万人当たりの施設数	箇所/10,000人	（浄水場数＋送･配水施設）/（現在給水人口/10,000）	0.15	0.15	0.15	
地域条件のプロフィール	有収水量密度	1,000m3/ha	有収水量 / 計画給水区域面積	9.95	9.88	9.76	水道事業自体の効率性や管の効率性を示す。この値は大きい方がよい。ただし、人口や、都市化の程度、山地面積など地域条件によるところが大きく、事業体の経営努力だけでは改善が難しい項目である。
	水道メーター密度	個/km	水道メーター数 / 配水管延長	176.3	175.4	177.3	
	単位管延長	m/人	導送配水管延長 / 現在給水人口	2.77	2.79	2.78	